

---

# むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみた

ナナツボシ

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみた

### 【Nコード】

N8825Y

### 【作者名】

ナナツボシ

### 【あらすじ】

テンプレらしきシチュエーションで死に、目を覚ませばそこは森の中。いわゆる異世界迷い込みらしいが、元来フリーダムな正確な主人公は明るくポジティブに異世界を生きるッ！

これは前に書いてた「森の中」の改訂版だよ。

（ ） > < < 最強、ハーレム、ご都合主義が

含まれるよ。

（ ） >

＜（＜地雷が嫌ならお帰りなさいな。

死ぬからのゝ生きるッッ！（前書き）

取り敢えず全力でテンプレな導入

死ぬからのゝ生きるッツ！

とりあえず自己紹介をしましょうか。まず名前は山崎と言います。下の名前は半太<sup>ハンタ</sup>と言いますが、小さい頃から「ヤマザキパン」と言われ続けたのが嫌ですから、山崎と覚えて欲しいです。そもそも半太と山崎でしたら、山崎の方が格好良いかなと。なんとなくそう思っています。

年は三十路も半ばなので、興味ないでしょうか？だから言いません。体型は身長が高いですが、痩せ形ですのでなんかマツチ棒みたいで好きじゃありません。

恋人は適当にいましたが、セックスの楽しいうちはいいののですが、将来だ結婚だと重たい話になると面倒になりました、30歳を機に恋人はもたず、風俗を極める事に心血を注ぎました。あはは。

池袋のヘルス「ヌクドナルド」のまどか嬢は、一年通った記念にまさかの本番をプレゼントしてくれたのが、ささやかであるが私の自慢であるでしょう。

今では店構えを見ただけで、その店が当りかハズレかは判るほど風俗の達人となれました。自慢にならないと思いますが、まあ、いいじゃありませんか。道を極める事は無駄になりませんよ。たとえ閨でしか発揮出来ないとしても。

仕事は中堅ゼネコンにいました。一応、一級建築士を持っていますが、独立出来るほど甘くはありません。ほら、世の中不況不況と騒がしいでしょう？独立したってたかが知れているんですよ。

だから適度に刺激的で、それでいて起伏の無い平凡な生活つても  
のを私は求めているのですよ、私は。

うん、違いますね……

やつでした……と訂正します。

何故かと言いますと、私は死んでしまったのです。それはもうア  
ツサリとゴリンジューって訳です。

まあ説明しましょうか。ってロボットアニメみたいですが、言わ  
なきゃ始まりませんから、お怒りは勘弁して欲しいですね。

そう、私はいつものように目を覚まし、身仕度を経て担当現場で  
あるある官公庁の新庁舎に向いました。うん、よく晴れた爽やかな  
朝でしたね。

早朝だから渋滞は皆無です。快適な国道を赤茶けた電波塔を背に  
現場に向かいました。このトウキョーのランドマークは無言でそび  
え立っています。何となく敬礼したくなりませんか？

やがて現場につき、朝の申し送りをします。最早ルーティン化し  
た儀式ですけどね。そうして内装を頼んでいた業者の担当者に会い  
に3階を目指し、私は足場を昇りました。パイプで組まれた櫓みた  
いな物ですね。

「山崎さん！危ない！」

と、いう叫び声を聞き、思わず上を見上げましたら、ハンマーが私を目がけ落ちてきました……そして暗転。痛いとか一切なしですよ？

どこかで「ごめんなさい、間違えて殺しました。お詫びに別世界で新しい命を手配します。あ、多少身体能力や判断力は上乘せします。では、頑張ってください。サヨウナラ」という女性の声が聞こえましたが、そのまま意識が飛びました。そもそも何がごめんなさいで、何が頑張ってるのですか？と問い詰めたいですね。あまりに不躰過ぎます。

で、気が付いたら森のなかと言う。

全裸で。

お母さん、寒いです。

いや、お母さんいませんが……。

なるほどなるほど、頑張る以前に説明が欲しい私でした。フリー  
ダムにさらされた私のお稲荷さんが虚しかったですね。



錯乱からのゝ人外ッ (前書き)

短くてごめんなさい。

## 錯乱からのく人外ツ

ほんとにほんとにほんとにライ ンだあ

近過ぎちゃってどうしよう!?

可愛くってどうしよう!??

異世界サファリパくくクッ!

はあ……私、ただいま絶賛現実逃避中です。

いやね?とりあえず裸ですし、人もいません。

鳥やなにかの獣の鳴き声はしますが……普通はパニックを起こしませんか?

はい、かくいう私も恥ずかしながら、発狂寸前……いや、発狂しましたよ。

そうですね?三時間は叫んだあたりですか?だんだん私は頭にきましたよ。

だから、そこらの大木に頭を打ち付けたわけです。

それはもう、どこかの汎用人型決戦兵器が暴走したかのようにガンガンと。当たり前かと思いませんか？

チンチン丸出しで何やってるんでしょうね。

ガンガン……はぁ……

あのですね……向こう側に頭が突き抜けましたよ。わかります？私の頭のカタチの穴が開いたのです。ぶっとい大木にデスヨ。

ポカーンですよ。

んなわけないと、今度は別の大木にアックスボンバーをかましたわけです。アックスボンバー、つまりホーガンが猪木を失神させたアレです。知りませんか？そんなお子様はお父さんに聞いて下さい。

そしたらバキィィ！！って。あ、グラップラーな最強息子じゃないですよ？

まあ私の戯れに放ったアックスボンバーで、一抱えで足りない位の大木が倒れました。いや、木っ端微塵です。

はぁ……理解しました。

死に際に聞いた変な女らしき声があった”身体能力や判断力”

ってこれですね。しかしちょっと所のレベルじゃないですって……判断力はよくわかりませんが、取り敢えず私はピクルやオーガミたいな人外らしいです。

まあ、冷静に考えたらここは気温は温暖ですし、身体能力は人外です。狩りでもしたら生きては行けそうですね。とりあえず、色々考えてみますか……

多分この体は滅多な事じゃ死ななそうですね。マラリアとか病気は分からないですが、多分大丈夫じゃないですかねえ……。

目標はとりあえず人外パワーで木を斬り倒し、建築士の知識で家を建てます。だって裸ですし……寝床はいるでしょう。

後は水場の確保と、食料の確保は欠かせません。

いやあ、私の超ポジティブな性格はサバイバル向きですね。

そこは親に感謝です。ありがとうございます、父さん母さん！！はっはっは……いや、いませんけどね両親。え？知りませんよ？孤児院育ちですから。だから図太いんです。だって、遠慮してたらオカズ無くなりますし、学校いけば貧乏貧乏言われてハブにされますしね？図太くなきゃ生きてはいけませんね。まあいいでしょう、これは。

さあ、動きますか……

時は金なりと言いますからね。

## 挑戦からのバトルツ

取り敢えず水場から確保しますか。人間生きてくには、必ず水は必要ですからね？食物より先に水は必須ですよ？と、今は鬱蒼とした森な訳ですが、取り敢えず麓（と、思われる）方向を目指して出発です！全裸で！川探すのです！

ぶらーん ぺち

ぶらーん ぺち

こちらに来て、若干サイズアップした気がする我が愚息ですが、歩きたびに内股を叩くんです。うふん。この解放感 カ・イ・カ・ンです

多分、しばらく本来の目的である交尾には使えない、完全なる小便専用管と化してますね、我が愚息は。

だが、やはり大事にしてやりたいですよ。いつ何時、誰の快樂の泉にフェードインするかわかりませんか？と言つか我が亀仙人のツルツル頭が、さっきから若干痛いんです。

とはいえ、これといって策も無いです。なので、取り敢えずその辺の植物のつるを腰ヒモとし、柔らかな葉っぱを適度に垂らし、原始的なパンツを作成。はじめ人間ギヤー……ま、いいです。とにかく

く亀仙人は守られたのですから。

亀仙人も嬉しそうですよ。

とか言っていましたら、日もてっぺん辺りから傾いて来たので、水場探しに戻ります。と言うか喉がカラカラなんですよう。腹も減りましたしね。

だいたいですよ？夜になったらどんなヤバイ獣がでるか分からないですもん。あ、これフラグですか？うるさいです。

しかしツイてますね。時折見かける桃のような（色は黄色）果物を見かけ食べました。毒とか怖くないのか？いえ、気が付いたら食ってました。食べた後にあっ毒！？と思いましたが遅いですよ。まあ結果オーライですか？私は渴いた喉を潤しながら、とにかく歩く、歩く。

そんなこんなで2時間も歩いたでしょうか？木がまばらになり、林くらの間隔になってきた辺りで、水が流れるような音がツツ！……！！

やりました！男、山崎！とうとう川を発見しま………おおっ！？私の人外アンテナが反応しましたよ旦那！

川のほとりには、水を飲む鹿のような動物がいました。

キタキタキタキタあ！

ワシ、あいつの命タマとつちやる！！失礼、取り乱しました。

だって肉は食料になるだろうし、皮は服に出来ます。衣食住の衣・食を一気にゲットできますよ？ふっふっふ……

ただ、問題がひとつ。

ぬるい現代日本人である私は、生き物を殺す勇気が正直無いです。

多分、やっつけたら血がドバドバ出たり、変な液体飛び出し首が有り得ない方向に曲がったりするでしょう？

オエッ……想像しただけで、かなりグロいんですけど……

しかもアイツ、体高3メートルくらいありますし、ものっそい角  
あります。

刺されたら痛そう、ってか死ねるでしょう？いくら身体能力チー  
トだとはいえ、刺されたらヤバイに決まっています……

ん？ こっち見て……ますか？

鹿っぽいのが、首だけこっちむけて、「ん？」みたいに見えます  
ね……あらやだ、超可愛いんですが。

ですが次の瞬間、彼の目が真っ赤になり、突進してきやがりました！！

ヤバイヤバイヤバイ！あれ、なんだ！？いや、そうです。話せばわかりますよ！落ち着け鹿！さぞかし名のある鹿とお見受けしたのが、なぜそう荒ぶるのか！違！う！あれ？私は結構余裕ある？いいから  
D A M A R E 私の頭。

鹿タンと私の距離は約10メートル

うわあああああ！！

心臓が握り潰されるような恐怖のなか、私は手当たり次第その辺の石を投げつけます。目をつぶり、無我夢中で。まるで駄々っ子の攻撃ですね？「うわーん、こっちくるなー」的な？

七つ目くらい投げた辺りで、「ボグウー！」と激しい音がして、静かになりました……。

おそろおそろ目をあけたら、鹿っぽいのが倒れてました！

近寄ってみるとピクピクと痙攣して、舌がびろーんと出ていて、頭がパーン！ってなっていました……。

うわあ…小石が弾丸並みの威力って……正直ヒキませんか？

ま、取り敢えず……



シカとっただとおお!!!

故郷の父さん母さん

貴方の息子は立派に童貞（殺しの）捨てましたよ！だから親いな  
いけど（しつこい）

はぁ……だがまたも問題発生です……解体作業のがグロいのでは  
無いでしょうか？

そして私は途方にくれた。

数分ほどですけどね！

罪悪感感しても腹膨れないですもん！

と、ポジティブ全開して、解体作業はじめましょうか。

私は刃物が無いので、河原のデカイ石にさらにデカイ石をぶつけ  
て叩き割り、刃物っぱいのをいくつか拾い、鹿のそばへ。

ぶつとと深呼吸

ズビユ　ヌチユ　ズビビビ……

（自主規制中）

はぁ、返り血で身体中が真っ赤です……

おかげさまで、大量のシカ生肉と、布団一枚くらいの大きさの皮をゲットしました！！

さっきの石でなめして、川で洗って乾かす。ウホツいい革です！

私の中に充実感が溢れ、取り敢えず人外ライフの入り口には立たかな？そう感じた昼下りでした。

## 充実からの労働ッ

やあ、山崎です。シカを仕留め有頂天です。取り敢えず食事を確保し、調理の為に乾いた枝を沢山集めました。

それらを組み上げ、焚き火の準備をし、チート身体能力を発揮させ火をつけました。板に枝で摩擦をぐるぐるってね？ああ、数秒とか笑えませんか？むしろ加減間違うと穴が開くんですよ。これだから人外は……と言う自虐ギャグをかましてみても虚しい。

火がおきた所で木を裂いて作った串に肉をさして焼くわけですが、お腹が空きすぎて生で行きたい衝動に！それやったら私の人間と言っ卒が完全に壊れそうなので我慢しました。

あ、肉は焚き火がオキ火になってから焼きました。流石に焦げたら美味しくないですから。

お腹一杯になり、川の水をガブガブ飲みましたら、ようやく心地がつかまりました。

柔らかい土のうえに寝転び、少し昼寝。緩やかな風がとても気持ちがいいです。

日本じゃなかなかこんな時間は取れませんから、なんか満たされた気持ちがありますね。大自然サイコー！鳥の声が今は心地がいいです。

お腹一杯になりましたら突如ムラムラしてきたので、新宿は歌舞伎町のピンサロ、「花マン開」のみゆきちゃんの、毛の無い綺麗な桜貝を思い出しながらの手淫を一つ……。

なんか、解放感がタマラナイです！。多分この快感は初めてかもしれない。よく裸のオツキアイだけのお姉さんと、野外で盛った事はあります。と言うか所謂アオカンなんて、そんな珍しくないじゃないですか。

だがしかし、こんな大自然で発電する紳士は中々いないでしょう？ヤバいです。癖になります。

……………ふう。

やあ、失礼失礼。つい賢者になってしまいました。メンゴメンゴ。

気を取り直し、今度は住居に取り掛かりましょうか。どうも見たところ近隣に集落らしき物はなさそうですし、彷徨っても深みにハマるでしょうか？常識的に考えて。だから取り敢えずは拠点って事です。

取り敢えず、川から50メートルくらいの場所の川から少し高い場所に、半径25メートル位の広場を作ります。流石に見通し悪い

と怖いですから。

中心には、樹齢5000年は下らないような、大木と言うには憚れる超巨大なブナの木があります。と言うかこの木は切ったりしたら何か祟りでもありそうな、そんな雰囲気がありますね。

だからその周りの木を次々と切り株ごと引っ込抜き、広場を作ります。もう私の身体はマシンですね。サクサク抜けますもの。と言うか、この能力を自覚してから一回も全力出してないんですよ？怖いですよなんか……。

まあそれはいいとして、次は蔦と固い枝で縄ばしごを作り、ブナの大量に枝分かれしてる場所に据えました。

後は手当たり次第引っ込抜いた木を手刀で乱暴に加工し、ブナにツリーハウスを拵えました。ツリーハウスは男の浪漫ですから。秘密基地的な興奮がたまりませんな。

そんなこんなで完成しました。まあ10畳ワンルームって感じですかね？中々快適そうです。このブナの木デカイですからね。これでも遠慮したんですよ。ごめんね？カーサン。ん？いやなんか寂しいから、ブナの木に”母さんの木”って名前つけました。だからカーサンなんです。

これで雨露は防げます。まあ建築士が作ったにしては粗末なもんですが……警沢は言えません。

後は山火事でも起こしたら泣けるので、河原から人の頭程度の大

きさの石を集め、寸胴三つは置きそつな「コ」の字型の釜戸を作り、河原の泥で釜戸の隙間を埋めた。料理は必ずしますからね。

まあまあ良い出来と自画自賛してみます。道具が無いのに立派でしょう？

うん、虚しいですね。うるさいです。

トイレはあれなんで、大便是川で、小便は縄張り主張の為に広場を囲むように立ちしょんする事にしました。弱い獣なら防げないかなと言う希望的観測ですけどね？

取り敢えずここまで済んだ訳ですが、かなりの労働でしたが、チート身体能力のおかげさまかまったく疲れてないのが気持ち悪いですね。良いことだとは思いますが。だけど中々馴れませんよ。未だ異世界って半信半疑ですもん。でも、もしかしたら東南アジアのジヤングルかもしれないからね？だからまだ確信は出来ません。

そんなこんなしていたら、完全に夜になったので自慢のツリーハウスで就寝です。

はあ……健康的な生活ってやつですね。

明日も頑張ろうつと。

ああ、腹が立つくらいに星が綺麗です……。

驚愕からの〜拾い物ッ(前書き)

ア品めりませす

## 驚愕からの拾い物ッ

やあ、山崎だよ。今、窓から差し込む爽やかな朝日で目覚めた所さ。異世界らしき場所に放り出されて一日目が終わった訳さ。

というか、ツリーハウスの下で、何やら叫び声が聞こえます。

「イヤアアアア！」って、若い女の声だねえ。ま、私には関係ない話ですわな。と言うか向こうでおやんなさいよ。わざわざ人が寝てるそばでやらなくてもさ？

しかしまあ、正直煩いなあと窓から下を覗くと、5メートルくらいありそうな巨大な熊に追われた女が、悲鳴を上げながら弓をペしペし撃っている。

ってかさ、全く効いてないじゃん……ばかなの？死ぬの？

「あーこりゃやられるな」と思ったが、人の死体は見たくないので仕方なく10メートル位の高さにある我がツリーハウスから、私は飛び降りた。やだ、格好良くない？

すかさず私は集めておいた投石用の石（野球のボール大）を、二つ三つほど熊に投げるとあっさり即死。舐めるな熊吉がッ！戦闘描写もいりませんな。

だがフードを被った女が、恐怖の表情で私に弓を向けてきた。

まあ獣に追い詰められ、さらに得体のしれない半裸の見知らぬ男



は、自分が為す術が無かった熊を石つころであっさり殺した訳だ。流石に不気味に感じるかあ……。

だがね？命の恩人に弓向けるのか？　なんかムカつくな。ようしならば戦争だ。恨むなよ？

だからまあ一応、力を加減して石を頭に投げて気絶させた。フェミニストだからね？私は。

そして植物のつるでぐるぐる巻きにしばり、ツリーハウスに連れ帰る。

あ、ちなみにローブは脱がして没収した。戦利品として頂きます。貴重な布製品だもの。文句は受け付けない。

あと弓と矢筒は火にくべた。物騒だからね？リスク管理は大事です。はっはっは

ローブの無い縛られた女は、歳はハイティーン程度かな？　やたら可愛い顔だな。身長は私より5？くらい低いから、多分175？くらいかな？肌の色は褐色だが、顔のパーツは映画レオンの「マチルダ」を、少し大人っぽくした感じですよ。コケティッシュな感じでまあ可愛い。うんうん。

胸はそう、Dカップくらいあって、柔らかそう。とても美味しそう。うだ。

不思議なのは髪の色が真っ白で光沢があり、耳が尖ってるのですな。へんなの。あれだ指輪物語のアラウエン的……エルフか……ああ、只今ここが異世界と確定しました。泣いても良いですか？

まあそうやって、暫く眺めてたら女が気が付き、縛られた事を理解したらバタバタと暴れた。うふふ、そんなんじゃ融けないですよ？池袋の秘密サロンの女王様であるマキ様直伝の亀甲縛りを舐めな  
いで欲しいなあ。

だが、煩いなあ……

盗人ただけしい事この上ないな。このエルフ。

煩いからビツシビシと往復ビンタしたらおとなしくなった。

殺す気まんまんな目で睨むから、さらに往復ビンタしてやったら  
やっと怯えた目になり、震えながら黙った。

最初からそうしなさいや。面倒くさい。こっちの家に不法侵入し  
たのあなたよ？まずは事情聴取しなきゃならないですよ。だから私は反省もしないし、謝りもしない。

さて、取り敢えず尋問だわ。

お前なもの？どこから来た？どこどこだ？「私は燐とした声で  
言ってるやりました。

だが返事はなにやらアラビア語みたいな変な言語でよくわからん。

ほほう？しらばっくれて訳わからない言葉で誤魔化しますか？な  
ら仕方ありませんな、私も流石にムツとしました。だから

さわっ…さわさわっ…

「…!? ムー! ムー!」

後ろ手に縛られている彼女の脇腹を、フェザータッチでくすぐる。ホッホッホッ、逃げられはしませんよ? そもそも藻掻けば藻掻くほどに食い込みますからね? さあ、まだまだ行きますよお嬢さん?

さわさわっ…さわさわさわっ

「ムー! ムー! & § ツ!」

ホッホッホッ、何を言ってるか分かりませんか?

さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっ  
さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわ  
さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわっさわさわ  
さわさわっさわさわっさわさわっさわさわっ…

「ムー! ムムッん…ムムッ…ん…ムーー!」

しよわわわっ…

……この女、やってくれましたよ。失禁そして不思議な液体を吹いて失神しました。何ですかこれ。拷問なつもりが、謀らずもサービスしてしまったようです。私の才能が怖いです。

「ナアウ……クテロ……タンスグ……レイ……」

薄ら目を開けて、所謂ア　顔を晒したおバカさんが何か言ってますね？

あー…もしかして、普通に言葉が通じないのでしょうか？あらら…なら私が悪い……いや、私は彼女にサービスしたのですから反省はいりませんよ！謝罪は断固拒否します。ですが

まあ、異世界ですしね……

取り敢えず身振り手振りでこちらに敵意は無いと説明し、拘束は解きました。ですがまた暴れたらビツシビシいきますからね？

一応、通じたみたいですね？

だから、取り敢えずこの場所から出てけと伝えてみました。何故ならば私は1人で野人ライフを満喫したいので、他人は邪魔なのですよ。

だが、女は断固拒否する。何なのですか？このお嬢さんは。私はしつこく説得するんですが、涙を流してここに居たいというニコアンスのゼスチャーをしています。

こんな綺麗な女がなんなんでしょうね？まあ、お尋ねモノなんですか？まあ、やりとりがだるいので、迷惑かけなきゃ居てもいいと伝えました。

理解したらしく、抱きついてきて感謝をしめしてきました。

まあ、いいでしょう。言葉がわかりませんし……

取り敢えず、同居人（暫定）になりましたから、お祝い変わりにシカ肉を二人で食べました。

よっぽどお腹が減ってたのでしょうね？多分？はむさぼり食べましたよ？。このスレンダーな体のどこに入るのでしょうか……

取り敢えず名無しではあれですから、自己紹介しようと私は自分が山崎という名前だと、自分を指差し告げましたら、発音しづらいのか「ザキ」と言ってきました。何か即死しそうな響きですが、まあそれでいいでしょう。

対して彼女はイルフィというらしいです。まあエルフっぽい……のですかね？。まあ知りませんが、一応これで最低限の意思の疎通はできますね。

言葉は通じませんから、まあ取り敢えず名前がわかれば不都合は

ないでしょうね。

食後に昼寝だと横になつりましたら、イルフィも寝転んできました。特にする事は無いですからね。

いま私の前にこちらを向いて横になるイルフィですが、胸が怪しくたゆむのを見て正直興奮してきました。先ほどは彼女の嬌声を聞きましたしね。

そもそも彼女服装がいきません。何やら麻みたいな素材のやたら胸元が開いたワンピースなんですよ。それだけしかないのです。

しかもかなりのミニです。きつと狩り等をするのに楽だからでしょうね？ですが興奮するなつてのが無理でしょう。下着もありませんから、実は先ほどから彼女のテラテラ光ったナニかが丸見えなんです。

無意識のうちにエレクトしてたようで、じつと此方を見ていたイルフィがそつと握つてきました。男のこうした外卑た視線はすぐ女性に気が付くと言いますしね。

恩返しのもりなのでしょうか？ありがとうございます。私に遠慮の二文字はありませんよ？悪しからず。

彼女の半開きの唇に私の舌をねじ込んだら、彼女のスイッチも入ったようですね。二人して貪りあいました。接吻は快樂の入り口ですから、私は手を抜きません。

まさに交尾。言葉が分からないから余計に燃えますね。彼女の鼻息が妙に甘いです。

やっぱりまぐわいはたまりません。

イルフィも貞操観念低そうですし、野人ライフにはもってこいです。

いやあ、いい拾い物しましたね。

せつかくなのでもう一回しときましようと思ったのですが……。

えっ？血？



驚愕からの拾い物ッ(後書き)

改訂なので、毎日こまめに投稿します

## 理解からの〜日常ッ（前書き）

この主人公の喋り方は気持ち悪い。でも今更どうしようもないな。

## 理解からの日常ッ

やあ、山崎ですよ。すいませんね？挨拶がワンパターンで。お堅い宮仕えから解放されて、なんだか気が抜けたのですよ。

だから申し訳ありませんが、行動も自重はいたしませんよ。別に構わないでしょう？まあ、異論はあれど気にせず行だけですけどね。

さて私がこちらの世界に来て多分10日くらい経ったと思います。早いでしょう？光陰矢のごとってやつです。地球にいた頃は1日が長く感じました。5分置きに時計をみては、体感1時間にも感じていました。

最初はどうなるかと思いましたが、チートな身体能力は優秀です。狩りは楽勝ですし、身体が重機そのものって感じで、特に困難は無いですね。むしろ力を持て余します。

あ、そうそう。劇的に変わった事がありますね。

あの拾った娘のイルフィなんですが、どうやら本当にエルフという種族らしいです。お耳は長いですしね？美人さんでもあります。まったく眼福と言っちゃつです。

人間とは系統が全く違う生物らしく、まず寿命が長く平均は千年〜千五百年もあるようです。

因みにイルフィは百歳弱（誕生日を祝う風習がなく、大体この位程度かしら？）と言う認識らしいですよ）なので、人間に合わせる

まだ少女と言うことです。成人は三百歳くらいらしく、気の長いことですね。

ん？なんで判ったかですか？いやエルフは魔法を使っんです。よくわからりませんが、その辺を漂っている精霊と言うものを使役して使うらしいですね。

その魔法のひとつが精神感応魔法と言い、要は通訳魔法って事です。だから今は普通にイルフィと普通に話せます。ただ、向こうからはちゃんと日本語に聞こえますが、口は全然違う形に動いてるんです。どうやら精霊さんが通訳してると言う認識が正しいのでしようね。

なんて都合のいい話でしょう……まあ私は助かるから構いませんが。

おかげでこの世界の事が臆気ながら理解出来ました。

先に手近なところから片付けますか。種族からいきましょう。まずエルフは長い寿命と単一民族思想からか、個体数が少ないそうです。三つの部族があり、個体総数は千に充たない。そして魔法を使える唯一の種族であり、その為に人間に奴隷にされたりするらしいですね。まあ、魔法とやらの恩恵に与るためにいたいけなエルフを狩る。ホッホッホッ……こちらの人間も愚劣ですね。ま、当然私は愚劣の権化を自覚してますがね。

イルフィの部族はイル・クルーツという名前で、農耕や魔道具作成をほそぼそとしている穏やかな部族でしたが、奴隷目的のエルフ狩りにあい散り散りになったのだそうです。難儀なことです。

イルフィとは、イル族の姫って意味らしく、王様の何番目かの娘だそうです。つまりイルフィはお姫様と言う事になります。

だから最初逢ったとき、やたら抵抗してたのかと納得しました。この外郎！的な感じですか？いやあ当たってますよ。私は下衆いですからね。

そんな事情であれば人間嫌いで当然でしょうね。だけどイルフィに言わせれば私は例外らしいです。彼女が言うには、私は精霊がわからまとわりついていて、要は常に「祝福」状態らしいです。まあお得な感じですから、少し勉強したら、俺も魔法を使えるみたいですよ。面倒だからしないですけどね、今は。

あとはこの世界を牛耳っているのはやはり人間族で、魔法が使えないし寿命が短いですが、工業が発達しており、広い領地を支配しているようです。まあ地球の人間と野生動物の關係に置き換えたらわかりやすいかもしれませんね。

人間社会で国という単位ならば、四つの大陸に五つの国が存在してるみたいです。まあどうでもいいですがね、私には。関わらないですし。

因みに現在地から最寄りの街までは、約20？あるらしいです。近い…んですかね？よく分かりません。

人間族は他種族を迫害しています。やはり人間はどこの世界も同じで、なんか恥ずかしいですね。地球ではそうは思いませんでしたが、私が生きていた文化レベルから遙かに劣るらしいこの世界なら別です。

だって中世レベルと言う感じですから、つまりは私達が通つてきた時代の過程にこの世界はあると言えます。地球の中世レベルでは、奴隷や農奴が当たり前になりましたから。

ならば彼らはいずれ私達と同じようになるでしょう？なんかそれって、「これが貴方の本性なんですよ」と見せられてるみたいで気持ち悪いのですよ。だからと言って私には何も出来ませんがね？まあ、可愛いイルフィが危なくなつたなら、間違いなく私は人間を倒しますけどね？

ふふふ、柄じゃ無いですか？まあ私の所有物に汚い手で触らせない。そういう事にしておいて下さいな。

話がそれましたね。後はドワーフ族、小人族、獣人族、竜族がいますが、それぞれ交わらないで生きてるらしいです。

ですが人間以外の種族は割りとうまく折り合いつけているようですね。全体的な比率は、人間7：固有種族3程度で、3の中に色々な種族がひしめいていると言う事ですね。

まあ構成はこんなもんですかね？

〈sideイルフィ〉

私は逃げてきた。あのおぞましい人間共から。我が部族の集落に卑怯にも夜襲をかけてきた。

幾人かは死んだり捕われたりしたが、ほとんどは逃げた。

私はとにかく抵抗しながら、人里離れた深き森を目指した。森は私達エルフの友人。だから必ず守ってくれるはず。

そしてやつとの思いで人を振り切った。そう思って安堵して休んできた。魔法を使えばなしで精神力は空っぽだもの。

……そこにヤツがあらわれたんだ。見たこともないような、巨大なグレイベアーだ。私は残り少ない精神力で火の魔法を飛ばしながら、とにかくあてもなく逃げた。

けど身体が言うこと利かなくなり、もうダメ！ってところで、突然黒い人影が現れて、あろうことか石を投げつけアッサリとグレイベアーを殺してしまったのだ。

ああ精霊達よ……感謝します……と、よく見たら人間ではないか！

私は動かない手で何とか弓を持つが、情けない事に弦をひく力がない……  
が、男はいきなり石を私にぶつけた！気が付いたら私はす巻きにされていた。なんたる屈辱……

そして彼は私を拷問してきたんだけど、なんか気持ち良かったのはなんでかしら？理解出来ない。

色々あったが彼は敵意は無いから抵抗するなとゼスチャーで伝えて、私を警戒しながらも鳶を切り、私を解放した。

なんなんだこいつは。体はたくましく、顔は凛々しい。黒髪は美しいが戦士という感じでもなさそうだ。ただ異常なくらいに精霊様が纏わりついている。人間に精霊様が加護を与えるなんて聞いたことがない。

彼はさらに邪魔だから出ていけと言う。嫌だ！絶対に嫌だ！こんな状態で一人で生きてけないし、私自身、彼に興味が沸いたから。

必死に嫌だと言ってたら、彼は困ったように苦笑いをしたあと、いても良いというゼスチャーをした。

理由はわからないが、とにかく嬉しかった！はしたないが抱きついてしまった……

彼は肉を食べさせてくれた。食後、彼が昼寝をしようというゼスチャーをして、肩肘ついて横になった。

私は気が高ぶってるのか、眠れそうに無いから、形だけは横になり彼を観察していた。

彼は私の体に興味をもったようで、チラチラ見てくる。見たいならちゃんと見たらいいのにな？シャイなのかしら？人間は分からないわ。

そしたら彼の下半身はむくむくと大きくなり、腰ミノからはみ出した。私に発情したようだ。なんか嬉しい。



エルフ族は体を重ねるのは夫婦だけなのだけど、彼を見ていたら欲しくなっちゃった。何より私の命の恩人だわ。なら夫婦になるのは当然よね。

やり方は知ってる。でもちよつと怖い。初めては痛いから。でも、さっき彼が私をくすぐった時、私は有り得ないくらい気持ち良かった。失禁しちゃったしね……。なら私の初めてを貰ってもらおう。

でも言葉が通じないから、私から勇気を出して彼の分身を手で愛撫したら、一気に抱かれた。彼ったら実は情熱的？

彼も私が気に入ったの？ だったら嬉しいな。

彼は荒々しかったけど、身体中に接吻して愛してくれた。なんて細やかなんだろう？ 気が付いたらおねだりしてた。

強くて夜も遅しい。私は彼を離さない。決めた。彼は私のもの。

side out

しかしまあイルフィの魔法のお陰で火の心配はなくなりました。  
いちいち棒回しは面倒ですからね。

後は畑を作りました。と言っても、山歩きした際見つけたハーブ類ですがね。塩がありませんから、今は肉を焼くだけの食事ですが、ハーブがあれば少しはマシでしょう。

後嬉しかったのが、タバコ草が大量に群生してる場所を見付けたのです。イルフィが教えてくれました。エルフはこれを儀式に使うそうです。なのでいずれ吸えるようになるでしょう。嗜好品は心に潤いをくれますからね？

イルフィは働き者で普段は寡黙ですが、夜は甘えん坊で何回も求めてきます。

うん、イルフィを嫁にしましょう。嫌だつて言っても気にしませんよ。綺麗でアノ具合もよく、働き者ですよ？こんな優良物件絶対はなしませんよ？ホッホッホッ……。

取り敢えずいまはそんな感じですね。ではまた逢いましょう。

## 開拓からの〜豊作ッ

あれからどれくらい経ったでしょう？多分半年くらいですかね？  
とにかくこの地に根を下ろしてから随分経ちました。

取り敢えず私とイルフィは働きました。というのもイルフィが山  
でとれたキノコ等を、人里に降り物々交換で数々の作物の種を手  
入れたのですよ。

もちろんエルフとばれたらやつかいなので、変化の魔法で男装し、  
フードを深くかぶり冒険者に成り済ましてですからね？私はイルフ  
イに危険は犯させませんよ。

山に帰るときも後を付けられないよう細心の注意を忘れずにして  
もらってます。風の魔法を使ってもらい、素晴らしい速さで遠回り  
して貰ってます。今のところは大丈夫みたいです。

イルフィには畑作の知識があり、彼女の指示するままに畑を耕し、  
気が付けばちょっとした学校のグラウンドくらいの広さの畑が出来  
ました。流石はエルフの知識です。正直感心しましたし、彼女の献  
身は堪らなく愛しいです。

山の腐葉土をふんだんに混ぜ、家畜（後述）の糞を堆肥に使いま  
した。

ふと見渡すと、我ながら見事な出来だと自画自賛したくなります。

私が戯れに「イルフィ、立派な畑が出来ました。全て貴方のお陰

ですよ。ありがとう」と柄にもなくお礼を言いますと、イルフィは「気にするな。私も飢えたくは無いだけの事だ」なんて顔を真っ赤にして言います。

なんて可愛い生き物なんでしょうね。

畑は様々な作物を植えました。小麦、芋、野菜各種、ハーブ。大したもんでしょう？はやく収穫したいものです。豊かな食生活は精神衛生に一番です。食生活が荒れますと、心に余裕が無くなりますよ。皆さんもお気をつけて。

後、あまりに暇でしたので、山から粘土を掘ってきて焼き物を作りました。窯もたくさん作りましたからね。

料理の窯、炭焼き窯、燻製窯、そして焼き物の窯です。とにかく暇だけはたくさんありますから、明るいうちは2人それぞれ働き、暗くなったら眠たくなる迄イルフィと愛し合います。星を見ながらのセックスは素晴らしいです。ま、他に娯楽が無いですからね。

余談ですが、イルフィはまだ成人年齢に達してませんから、生理も排卵もありません。だから子供はまだ作れないです。なので今は奔放に彼女は楽しんでます。色んな意味で最高のパートナーですね。

私達はたくさん器をつくり、イルフィに街の商会に売らせてみたら、意外にもかなりの高評価で、コンスタントに持ってきて欲しいと言われました。

特に絵皿は人気らしく、貴族が飾るために買い付けるようで、一枚銀貨10枚で買取ってくれます。

因みにこの世界の通貨は紙幣がありません。全て硬貨で、銅貨、銀貨、金貨、白金貨が存在します。

それらは全て百枚で上の硬貨一枚に交換できます。日本円に換算すると、銀貨一枚で千円程度です。平均的な平民家庭で、毎月銀貨50枚くらいで生活できるらしいですね。

だから私の皿は一枚一万円ってことです。貴族っておバカさんですね。そういう訳で我が家は割りと裕福ですね。買うものはせいぜい調味料くらいで、後は自給自足ですから。

自宅はツリーハウスはやめて、平地に平屋の家を建てました。漸く建築家だった私が本領発揮できましたよ。嬉しいです。

それにイルフィが結界をはれるので、外敵を気にしないでよくなつたからと言うのが一番の理由ですね。

森に迷い込んだ人間には我が家は見えません。かなり便利です。

まあとにかくそうして、とってつけたようなツリーハウスはやめにして、ちゃんと図面をひいて設計したのです。

道具に関しては陶芸で手に入れた資金をもとに、色々手に入れました。まあ私が能力任せにやることは可能ですが、やはり繊細な作

業には道具は必須です。イルフィとの愛の巣ですから、そこはちゃんとやりましたよ。5LDKの平屋は中々自信作ですよ。

まあ農具も含め必要最低限な道具は手にいれました。お陰で随分と楽になりましたね作業は。

家は気候を考慮して、地中海風にしました。家中の床は自分で焼いたテラコッタを敷き詰め、壁は川沿いの土にキラキラひかる石を砕いて混ぜたものを塗り、土壁としました。

完成したときイルフィは、「こんな素敵なお家、見たことないわ！大好きザキ！」と熱い抱擁とキスの嵐をくれました。やはりイルフィは可愛いですね。そもそも現代建築から古代建築まで勉強した私ですから、当然と言えば当然です。でもイルフィがはしゃぐ姿を見れたのは重畳ですね。

その姿に欲情し、いつもの3割増し（当社比）で抱いたのは秘密ですよ？

後は畑を囲むように水路を作りました。川から直接水を引いてます。私が全て掘り、畑を含む我が敷地を取り囲み、堀のようにしました。

幅は3メートルで、内側の防水処理として山の粘土を塗ってあります。

後は橋をつくり、山への道と正面にかけた訳です。

そういえば街でキセルを手に入れたので、タバコ草を加工してようやく吸えるようになりましたが、どうやらただのタバコ草ではなく、軽くトリップする作用のある種類だった。

いわゆるカナビスとか言われる葉っぱですね。なので酩酊状態は仕事に影響されるので、もっぱらイルフィとのラブモード前に、二人でイチヤイチャしながら吸うというのが暗黙の了解となっております。必要以上に乱れ、後で冷静になった彼女が赤面するのを見るのはたまりません。

いやあ、実に快適な生活です。私は幸せですね。イルフィはどうでしょう？きつと幸せなんじゃないかと自惚れてみる私です。

最近は日がだんだんと短くなり秋が来ました。畑は作物がやまほど実り、幸せな季節となりましたね。私たちの苦労は報われました。

私達は手を取り合い喜び、とれた作物でささやかな豊穰祭を2人きりでやりました。

なんかこう……やっと異世界ではありますが、現実感が沸いたと言いますか、「ここは私のホームだ！」とやっと思えました。

うん、もはやココが私の故郷です。だからせいぜい稼ぎますよ。

そうそう、山の獣を狩っていたら、イルフィのやつが、「精霊たちがザワザワしてる」と、不安な顔をするので、街から家畜を買い

ました。獣と言えど、森の一部な訳です。

だから私達は豚を百頭、山羊を二十頭、鳥を二十羽買いました。

山にはブナやナラなど、ドングリがなる木が沢山生えてますから、イルフイに結界を張らせて豚を放し飼いにしました。イベリコ豚の模倣です。

鳥と山羊は家のそばに広い囲いをこしらえ、放し飼いです。そのお陰で、今は毎日山羊の乳を飲み、卵を食べ、時折豚を食べられます。

もっと大量に塩が手に入ったら、生ハムを作ろうと企んでいます。

ハモンイベリコならぬ、ハモンヤマザキですね。非常に楽しみです。

まあ冬になる前に塩でも探しにいけますかね。岩塩ならどこかにありそうですから。

では今日はここまでです。さようなら。



開拓からの〜豊作ッ（後書き）

今日はこれで最後

## 知識からの成長（前書き）

未だ説明パート終わらず。

## 知識からの成長

やはり塩が欲しいですね。贅沢言えば胡椒的なスパイスもです。食事が味気ないのですよ。村から少しは買ったり出来ますが、如何せん高価過ぎます。これらも異世界ならでは何でしょうが、正直つらいですね。現代人は舌が越えすぎていますから。

イルフィに聞きましたら、塩の価値は一財産築くレベルと言うよりも国家レベルで貿易だ！くらいの高級品であり、当然のように戦時中の戦略物資足りえる物と分かりました。胡椒も冷蔵技術に乏しいこの世界ですから、保存を促進するスパイス類は扱える商人も限られているそうです。

ならばどうしましょうかとイルフィとヒソヒソとお話した訳です。

そこでまず、塩の製法を知識として知っている私は、海水塩をどうにかして精製し確保 それをメインに商売を 資金が潤沢になり、徐々に胡椒の栽培に着手 私とイルフィにんまり左うちわ……なんて素晴らしいのでしょうか！

という作戦ですね。ただネックになるのは二人で外に行けないってことなんです。

集落ヤマザキ（仮）を維持するためにはどちらかが残らないといけない。家畜とか畑がありますしね？結界の維持も必要になります。この世界での遠出とは、幾日も泊まり掛けでとなりますからねえ。それは移動手段が馬車か徒歩に限定される為です。

ならば私が魔法覚えて私がここに残ると言う選択もあるんでしょ

うが、イルフィが人間に見つかる困った事になりますからね。

四六時中変化の魔法を維持したら、精神力がガス欠おこすらしいですよ。怖いですね？魔法とやらは。

だから必然的に私が行くしかない訳です。イルフィがここにいる分には結界のお陰で絶対に他人に見つかりませんから。なので冬になって畑も作業出来なくなり、家に閉じこもったら習おうとしてた魔法を、前倒しして覚える事になりました。

本当に面倒な事ですね。私は魔法よりも、人外腕力で暴れる方が似合う。そう思いませんか？まあいいでしょう。いずれは必要になる力です。エルフであるイルフィから言わせれば、ここまで強い加護を持った存在は知らないと言う事ですから、利用しない手はありませんからね。これも異世界に飛ばされた恩恵？なのですかね。

とりあえず計画としては塩田作成するために、未開であり海に面した土地を見つけ、塩田を作る為の試行錯誤をしなければなりません。と言うのも私が塩田を知っていると云っても、それはあくまでも某NHKで見たドキュメンタリーでの知識です。私、建築家ですよ？塩田なんか出来る訳ないでしょう？おバカさんですね、そこまで恵まれた能力ではありませんよ。

そして運搬の為の手段の構築と、集落ヤマザキ（仮）規模の拠点を向こうにも作る事ですね。保管する倉庫も必要ですし、滞在する宿舎も必要になりますからね。いずれは海運も考えています。この国がある大陸は、言うなればオーストラリアのような巨大な島らしいですからね。ならば海運に秀でれば濡れ手に泡…そういう事ですね。

と言う事はそれなりに期間は必要であるし、いままでイルフィが使った魔法程度は必須なんですよねえ。え？当たり前でしょう？向こうにも結界が必要なのですから。塩は戦略物資と言いましたよ？この大陸にある国や商人に目を付けられたら困りますからね。騎士団を差し向けられても殺せばいい話ですが、一国の軍を相手には無理でしょう？なので魔法習得は計画を進める以上必須な訳です。

幸い私には加護がありますから、素質はバツチリなのだといルフィは言います。ただ彼女が私の先生になるにあたって不安が1つあるんです。それは彼女が物凄くノリノリだと言う事です。何ですか？あの悪魔のような笑みは。普段私が彼女を手玉（主に夜）に取っている意趣返しですね、完全に。まあいいでしょう。今夜も失神するまで犯してあげますからね？

「あ、あうっ。で、でも勉強はちゃんとするんだからねっ！」

夜犯されるは否定しないんですね？

「し、知らないっ！」

ね？可愛いでしょう？

さて後の懸念事項は、私がとうとう避けてた「この世界の人間との接触」を覚悟しなければいけないと言う事ですね。

はあ……ただの野人ライフが良かったのですがね……

まあ今はイルフィって一嫁がいますし、覚悟してみますかね。あ、どうやらイルフィも初めて契った段階で、私と一緒に生きてい

く覚悟があつたそうです。エルフは一度契つた相手と婚姻し、それはどちらかが死ぬ迄続くみたいですよ。ただ婚姻しているからと言って、他の誰かとイタしたりするのは奔放だつたりするようです。エルフと言う種族の制度での婚姻、そして長命種である為の処世術。そういう事ですね。なんだか保守的なのかりべラルなのか訳が分かりません。ただ彼女は私だけがいと嬉しい事を言ってくれます。まあ私はその限りではありませんがね……。

とまあそんなこんなでイルフィ先生に習いましたよ。え？魔法ですよ魔法。展開早いですか？仕方ありませんね。私達の日常は、基本的には畑いじりしかしませんから。だから割愛しますよ。

＼side イルフィ＼

久しぶりの登場ね。ベ…別に出来たかつた訳じゃ無いんだからね！ザキがどうしてもって言うから、仕方なくよ。ちよつとザキ！後ろでツンデレ乙とか煩い！私はクーデレよ、クーデレ！コホン……見なかつた事にしてちょうだい。殺すわよ？

あのね？勘違いしたらいけないのは、魔法に属性だの長つたらしいスペルとか、そんなメンドクサイことは無いのよ。

要は自分が起したい現象に必要な数の精霊を、ちゃんと集めら

れたら良いって訳。後は具体的に「こうしたい」って言うイメージを精霊達に伝えられたら、後は勝手にやってくれるわ。それを分かり易くした言霊はあるけどね？

どうかしら？簡単でしょでしょ？

私ができるのは結界を張る、火を起こす、風をふかせる、体を治癒するかな？まあ例えば火を起こす場合の精霊数を増やせば、当然火力は上がるわ。

後は精霊に球状で飛んでとか、焼き払えとか、指向性を与えたりとか……

つまり最低限の事象を基本にして言霊で指示し、後は応用を効かせた言霊を考えたらオリジナリティがある魔法が完成って訳ね。ただ、精霊に干渉する段階で精神的に疲れるのよ。だから連発は厳しいわ？後はそうね、顔を変えたりとか持続するタイプのは、一定時間が経過すると帰っちゃうのよ精霊が。飽きっぽいのかしらね？

ザキの場合は呼ばなくてもその土地の精霊が勝手に集まって来るから、使役の手段さえ判れば多分、ザキの存在そのものが力というか、気分次第で国一つ焼き尽くせると思うわ。だって精霊に干渉する際の精神的な疲れが無いもの。呼ぶ必要が無いのだから。

なんていうか、ムカつき？一応私はお姫様として恥ずかしくないように……って言うレベルまで、爺のスパルタというか、O H A N A S H Iされ続け、必死に努力したのよ？

なのに何なのザキって……やってらんないわ。才能とかのレベル越えてるってば。言わば彼自身が精霊の棲家と言えれば分かりやすい

かしら？そういえばザキつては気付いてるのかしら？エルフが長命なのって、精霊の加護があるからなのよ。……ザキつて死なないんじゃないかしら。加護なんて規模じゃないしね？ふふっ、ならザキといっぱい一緒に居れるし嬉しいわ？

はあ…説明終わり！

今夜も搾り取ってるからね。覚悟なさい！ふふふふふふ……いや、いつもコテンパンにされてるんだけどね……。

side out

……なんか寒気がしますね？またよからぬ事を考えてませんか？イルフィ。

そんなこんなで取り敢えず座学は終わりました。なので後は実際に精霊とコミュニケーションし、実践あるのみ、と言う訳ですね。

イルフィが言うには森のなかに座って瞑想をすると良いらしいです。そうすれば才能あれば感じられるそうです。そして私は加護が既に強いので、問題なく干渉できるとのお墨付きを頂きました。





何やら体のあちこちが引っ張られる気配がしますね？

目をこらして見てみたら、目の前にワラワラと半透明のブライス人形のような精霊がいました。可愛らしい女の子に見えますが、大きさは5？程しかありませんね。彼女達は口々に何かを言ってますが、私にはキユイキユイとしか聞こえません。何と言ってるのでしょうか？ただ悪意は感じられません。ただ私に興味があると言っているでしょう。

その中の割りとき大きなやつに私は手を伸ばしました。

それは一瞬、笑ったような表情をしました。そして次の瞬間、精霊達が一気に私の体に吸い込まれていきました。と言うより、嬉々として飛び込んだが正しいですね。

すると、体が軽くなるといいますか、力が漲る感じが凄いするんです。素晴らしい高揚感を伴って。

イルフィは精霊を感じたらイメージしながら言霊を唱えろと言っていました。言霊と言っても単純で、【起したい現象＋求める威力＋細かい条件】と言う組み合わせを唱えます。

具体的には「我は求む、大いなる火を。我を阻む敵を包み、焼き尽くせよ」と言う感じですね。これはイルフィが考えた言葉なので、アレンジは自由にだそうなんです。要は頭の中のイメージと結び付けば良いわけですね。

私はとりあえず指先にライターくらいの火をイメージしてみました。

「精霊さん達、私は火種が欲しいのです。さあ出しなさい」

ぼっ……

普通に出ましたね…なんか感動もありません。まあその後色々試してみました。火、風、雷、結界は出来ますね。治癒も出来ますし、さらに肉体強化も出来るようです。私にこれ以上強化しても仕方なさそうですが。

足に精霊を集中させてみたら、私は風になりました。ふむ、イメージ次第でどうにでもなるようですね。

因みにちよつと調子に乗って走り回っていたら、大木にぶつかって額が割れました。ホッホッホ……。

実はそのおかげで治癒魔法が使えるのがわかったのですけどね！とりあえず、一通りできたので満足としましょう。これで近いうちに旅に出れる訳ですから。

むう

出発までに出るだけイルフィと交尾しましょう

こうみえて実は寂しがりや何です。言い触らしたら殺しますよ？ホッホッホ……。

## 冒険からのくっつ？

……山崎ですよ。いりますか？このくだり。まあいいでしょう。ホッソホッソ…今回は、魔法使い山崎！いえ、華麗なる魔法使い山崎です。私の戦闘力がとうとう53ま…スパーン！！…痛いですが、イルフィにハリセンで殴られました……

では気を取り直し…私は魔法とやらを習得しました。ですので塩を求めて旅に出る事にしました。まあ計画してた事ですからね。

ですが旅に出ると言う事は、裏を返せばこの世界の文化や人に私に触れなければならぬという事なのです。本当に面倒ですね。何か厄介事の香りがぶんぶんしますよ。あ、またもやフラグですね。まあいまさらでしょう。

という事でこの世界の常識というものを少し、イルフィに習いました。すみませんね？説明ばかりで。これも様式美です。諦めて下さいね。

まず今いる大陸は「東の大陸」といいます。はい、分かりますよ、言いたい事は。ですがね？この世界の言語での表記では、イーステニアうんたらかんたらと言う、ちゃんとした読み方あるんですよ？

ですが…ホラ？

私はあくまで精霊魔法で会話や理解してる訳ですから、当然の如く日本語で会話してるように感じるわけです。一応文字は覚えましてよ。当然じゃないですか。ホッソホッソ……。

で、この大陸を領地としている国が、「グランピア王国」という  
そうです。

王国つてことは王様いるんでしょうね。む…王冠かぶってヒゲ生  
やしてたりするんですかね？あらら、とても見たいかもしれないで  
すね。白いタイツとか履いてたら、指差して笑ってやります。

話を続けます。中にはいくつかの街や村があちこちあって、人間  
以外の種族の自治区もあります。その為何ヶ所か関所があると言っ  
事です。

それが面倒なもので、一番近い街で冒険者ギルドに登録する事に  
なります。

つまり冒険者になればIDが手に入り、ある程度自由に旅が出来  
るのです。凶悪なモンスターを駆除する冒険者は優遇されるみたい  
ですね。まあ国としては軍を派兵するより安価ですから当然と言え  
ば当然ですね。まあ、いまはこんな所でいいでしょう。

爽やかな秋晴れの空で、少し肌寒いのが心地いいです。そろそろ  
ベッドから出ましようかね。出ましよう…出ましよう…イルフィさ  
ん？寂しいからとかいって、寝ないでやりまくってたんですから、  
そろそろ離して…あ、啞え…いやっ……らめえ~~~~~!!

## 二時間後

なんだか疲労感漂う私です……やっと解放されました。気を取り直し旅に出ます。

まあ、ぶつちやけてしまえば転位魔法使えばすぐ戻れますから、実際は寂しいとか無いのですよ。あれから私は色々魔法を研究しましたよ。それで分かったのは、私の加護は肉体能力以上に人外でした。まあそういう事ですね。

さて取り敢えず一番近くの街を目指す事にしましょうかね。じやイルフィ、行ってきますね。なんだか艶々してるのが少々ムカつきますね。可愛いから許しますがね。惚れた弱みですかね？

現在私は「商業都市 ザイオン」に向かっている訳ですが、方向とか合ってますよね？え、知るかって……そりゃそうですね。ホッホッホ……。

まあイルフィ曰く「あっち」を指摘しているんですね。多分20？はきたでしょうか？少し不安になっただけですよ。そもそも景色に一切の見覚えが無いのですから当然でしょう？

おや、街道がありますね？

まあ街道と言いましても粗末な未舗装の道ですね。こういうのを見れば、文化レベルのギャップを感じられますね。はあ、現代人は切ないですね。

おや？第一村人発見ですよ。声かけたらあっさり道案内してくれました。渡りに船ですね。

ホツホツホ…単純ですね？私が強盗だったらどうするんでしょうね？このお姉さんは。いや、明らかに私より年下でしょうから、お嬢さんですかね。

まあ我が愚息がピクリともしないので、見逃してやりましょうか……いえ、すこし初めてのおつかいではしゃいできました。お恥ずかしい。

実際はおとなしく着いてってますよ。しかし景色変に代わり映えがしなくつまらないですね。

がさがさー！！

「ヒヤッハーー！ここは通さねえぜ！ 金目のもんおいてきな！」

出ましたよ見たままそのまま紛れもない山賊ですよ。それでいてザコ臭がする山賊が三人現れました。

ちなみにヒヤッハー言つてた方はモヒカンでした。これも様式美です。諦めて下さいね？

お嬢さんは「きゃー」なんて言ってますが、まあ戦闘描写も勿体ない雑魚なんで、こつそり頭に発火させたら逃げていきました。

やはり汚物は消毒するに限りますね。そう思いませんか？お嬢さんは目を白黒させてました。私も「わあ、燃えてる。なにそれ怖い」と言っ怯えた演技してやりました。ホッホッホ……

魔法使えるとか言わないほうがいいよってイルフィに言われましてからね。まあ当然ですね。魔法を使いたいが為にエルフが狩られる世の中なのですから。わざわざ面倒の種をまく必要はありません。

とか言っている間にザイオンの門が見えてきました。中々立派な門構えです。裏を返せばそれだけの外敵がいると言っ事なのですかね？まあ私には関係ありませんが。

お嬢さんとお別れした私は、目的である冒険者ギルドを目指します。私とイルフィの明るい家族計画の第一歩ですね。

ではこの辺で失礼しますね？ホッホッホ……。



登録からの〜あれっ？(前書き)

だから下品ですいません

登録からの〜あれっ？

やあ、山崎ですよ。やはり私はこの流れは必要かと思うんです。ですから敢えて言います。私は山崎です。ッ！はい、しつこいですね。では、始めましょうか。

私は今、商業都市ザイオンの門に、それはそれは勇ましく立っております。私の輝かしい人間界デビューですからね。そこ、引きこもりとか言わないで頂きたい。殺しますよ？

さて、私をここまで案内して頂いたお嬢さんですが、「山賊はギルドで賞金首になってるから、証拠になるものを持ってくべき！」言うのですよ。お金になりますからね。

だから私は考えた訳です。証拠と言ったって、顔くらいしか識別できるのでは？と。

お嬢さんは、「はあそうかもしれない」と言うもんですから、私も「そうですね」なんて笑顔で首を次々刎ねたわけです。ナタで。

そしたらお嬢さん、あからさまに私も気味悪そうに見るのですよ。失礼だと思いませんか？

それで門についたなら、「お疲れ様ですう」なんて営業用スマイルでさっさと中に入っちゃったのですよ。

そしたらすかさず門番の方が、「お前、怪しい…実は山賊なんじゃないの？」みたいな事を言うわけですよ。これには普段温厚な私

でも憤慨した訳です。

私はね？ムツとした勢いで「貴方、一度死んでみますか？」なんて黒いオーラ出した訳です。そうしたら隊長とか言う人が来た訳ですよ。

それで最初の状態で門の前に立っていると云う事です。呆れるでしょう？何やらギラギラした目で10人くらいの門番に囲まれているのです。

隊長と言う人はどうみても若い女で、胸はととても残念なんだけど、唇が厚ぼったくて、しつとりしてて……

何より鎧が「なにそれ……守る気無いですよね？露出狂なんですか？」と問い詰めたいくらいの露出でして、何でしょう？今すぐ飛び掛かって、荒々しく後ろからイタしたい衝動に駆られますね。

ふう、取り敢えず落ち着きましょう。この状態では埒があきませんから。

「さてお嬢さん、この無礼な態度に対しての謝罪はあるのでしょうか？」

ふふっ……決まりましたよ完全に……私は体をすこし斜めにし、足は肩幅に開きます。両手は開いて広げ手をくいつくいつとやりながら、顔は少し尊大な表情で言い放った訳です。格好よくないですか？私。

そしたら門番達が怒号と共に飛び掛かってきたのですよ。失礼に

も程がありますね。まあいいでしょう。死なない程度に懲らしめてやりましょうか。全くおバカさん達ですね。

だいたい、「怪しいやつめ!」「隊長に失礼だ!」「イケメンは氏ね!」「モゲロ」等と口々に叫んでいます?後半意味わからないですよ。そもそも私はイケメンではありません。ただの紳士です。

では、お仕置きの時間ですッ!!

「さて、そこらに群がる蟲のような生物を、荒れ狂う暴風を集め、遙か彼方へとぶつ飛ばしてあげなさいッ!あくまで常識の範囲でッ!!!」

あらあら、おバカさん達は「何こいつ、頭おかしいの?」「みたいな目で見ていますね?ホッホッホ……

ヒュウウウウウ……

「!?!?」

「な、なんだ!?!?」

さあ、来ました。精霊さん達、やっておしまいなさいッ！

ドヒュアアアアアア！！！！！

『ワアアアア……』

いやあ、さすが竜巻。よく飛びましたね？……ああ、精霊さん達、張り切り過ぎましたか？ね？……見えなくなっちゃいました。まあ死んだらごめんなさい。でも自業自得ですからね？

あらあら、隊長さんぽかーんとして、「ふえ？あれっ？人間なのに魔法？」とか言ってる固まってるね。まったくおバカさんの極みです。

ホッホッホ……

ホッホッホ……

ああ私、興奮のあまりすっかり忘れてました。イルフィにあれ程言われていたと言うのに。え？魔法は隠しなさいと言うアレですよ。ほら、人間は魔法を使えないらしいですから。

いやあ、どうしましょうか？困りましたね。あ、でも隊長さん固まっていますから今のうちに……。

「あとう、どこ行くんですか？」

いえね？ちよつとそこまで用事がありましたね？

「それが通用すると思いますか？」

まあ、無理でしょうね？いつそ見なかった事になんて如何ですか？

「ごめんなさいそれは無理ですう」

あらあら、困りましたねえ。

「あとう？ お兄さんは悪い人ではないです…よね？」

「はい、私は悪い人ではないですよ。むしろ、悪い山賊を退治した良い人ですね？見ますか？首」

私は山賊達の首をぶらぶらと隊長さんに披露しました。

「ふむー。なら入っちゃっていいですよ！お兄さんは山賊を倒したようですし。」

私は「ありがとうございます」と、彼女の頭を撫で撫でしたら喜んでました。身長が小さいので、丁度いい高さに頭があつたのでつい撫でてしまいました。いやあ、頭が弱い子でセーフでしたね。

さあこれで問題解決ですね！では張り切って参りましょうか。いざ、冒険者ギルドへ出発です！

と、歩を進めた私の襟首が掴まれました。

「あ、そうそう、魔法のことをOHANASHIしましょう？」  
と、隊長さんは笑顔で言いました。目笑ってないですよ……。

はあ困りましたね。どうやらやり過ぎす事は無理みたいですね。  
ならば……。

「別に話してもいいですけど、今夜私の泊まる部屋でなら話しますよ。誰にでも話せる内容ではありませんからね。それが無理ならば、私は全力を持って抵抗して逃げますよ？」

さあ隊長さんはどう答えますかね？普通なら私はここで拘束されるでしょうがね。まあ最悪は隊長さんもろとも押し通るだけですがね。

「わかりましたあ。ないしょ話ですね。勤務が終わったら伺いますう」

彼女はボブヘアをぴよぴよ揺らして手を振ってくれました。あらあら……なんて言いますかとても可愛らしいですし、厚ぼったい唇がとてもいやらしいですね。

私、今夜この娘頂くことにしました。無防備な隊長さんがいけないのですよ？ホッホッホ……。

そんなこんなで色々ありましたが、私は冒険者ギルドに来ることが出来ました。余計な手間でしたがね。まあいいでしょう。

さて、冒険者ギルドですが、まさにギルド！と言いますか、中に入ったら西部劇に出てくるパブみたいな内装で、カウンターには胸にメロンを2つぶら下げたような、凶悪過ぎる乳の素朴な田舎娘が座っていました。

取り敢えず、是非挟ませて欲しいものですね。何を？欲望と言う男の浪漫に決まっています。



「いらつしやいませ。冒険者のかたですか？」

うん、舌たらずで可愛い声です。その唇で私の猛るマイサンを是非啜えてもらいたい。え？だから…いえ、止めましょう。

「あの一？……」

「ああ、申し訳ありません。私はまだ冒険者じゃなくてですね、登録をしたいのです。ついでに道中出くわした山賊を退治したものですからその確認もですね？」

「あ、はい了解しました。じゃあ軽く説明しますね」と、メロン娘は説明を始めました。

ギルド登録した冒険者は、他の大陸のギルドでも依頼を受けられる事。

冒険者はランク分けされており、下からE・D・C・B・A・S・SSと、なっているようです。

初期ランクは登録時に力を計測して決まるようです。計測機はエルフ謹製の魔道具だそうです。エルフを迫害している実態をしっかりといては少し複雑ですがね。まあ今は仕方ないでしょう。

Aランクまでは依頼を達成してポイントを貯めるか、またはギルドからの依頼の中でランク認定依頼を達成すればあがるようです。

ランク認定依頼とは、例えば長期に渡って討伐されない魔獣と言われる化け物モンスターが出現した際に、活躍してる冒険者にはギルドから直接依頼が入るのです。

まあそういう危険な依頼を達成したら、その危険さに応じてランクアップするのです。

因みにAランク以上は、災害指定魔獣と言う凶悪な、つまりはその名前が示すように、災害じみた被害をもたらす非常に危険なモンスターを討伐したら昇格できるようです。一種の名誉職に近いようです。まあ私には関係ありませんね？IDが欲しいだけですから。

報酬は依頼料の1割がギルドの取り分という事で、掲示板などに張り出される金額は既に差し引かれた金額と言う事です。

キャンセルと断念した場合はペナルティとして、依頼料の3割の罰金を払わなければならない様です。まあ当然でしょうね。

因みに依頼は一度に一個しか受けられず、自分のランク+1ランクまでしか受けられません。身の丈にあった事をしなさい。無理はいけませんよ？と言う事でしょうね。

そんな説明を受けた私は登録の意志をつけ、ランク計測をしてもらう事にしました。

計測は変な箱を持たされ、スイッチを押されます。すると幽かな振動と共に、羊皮紙に勝手にペンが動き始め、今まで倒した魔獣の内訳が書かれました。さすが魔道具、摩訶不思議ですね？

結果はAランクでした。

ほら、私はこちらにやってきて、でかい熊や山の獣を狩っていましたから。まあ食べるための狩りを毎日していましたしね？そしてどうやら私達が住んでいる森は、危なくて誰も近寄らないらしいですよ？私はそんな場所に放り出されたのですか……。

まあいいでしょう。今生きているのですから。

メロン娘は驚愕してますが、そんなの私には関係ありません。

詳しく聞きたがっていましたが、私が笑いながら「ベッドの中なら話してもいい」と言いましたら、頬を染めて「考えてみます……」とのこと。真に受けられても困りますよ？

まあ期待に胸と股間を膨らませましょうか。すいませんね？下品で。まあいまさらでしょう。気にしないでください。

そうして私は、晴れて冒険者の仲間入りと言う訳です。え？隊長さん？あなた、寸どめと言う言葉を知っていますか？では次回に会いましょう。ホッホッホ……

あ、そうそう。山賊三人の報酬ですが、サラリーマンの一ヶ月の給料程度でした。生命の値段にしては安いですね。私には関係ありませんがね？

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n8825y/>

---

むしゃくしゃしたから森の中から成り上がってみた

2011年11月28日00時34分発行